

### 最新!“投資信託”事情 ~グロソブから通貨選択型へ~



投資信託協会が発表した6月の投信概況によると、公募投資信託の新規購入から解約・償還を差し引いた資金流入額が4,238億円と、15ヵ月連続で資金流入となったそうだ。最近の株式市場の調整や円高傾向によって、残高は2ヵ月連続で減少した模様だが、外国債券に投資するタイプなどを中心に資金流入が続いている。本稿では、ここ1、2年の投資信託事情について、特に注目すべきポイントをまとめたいと思う。

下の図表は、2010年7月13日現在における国内投資信託の純資産総額上位10銘柄である。上位の顔ぶれは、ここ数年大きくは変わっていないが、7位のブラジル・ボンド・オープン(毎月決算型)や、10位のS M B C・日興ニューワールド債券(リアル)あたりが、ここ1、2年で登場して純資産総額を急激に増やしてきたファンドである。

順位	ファンド名称	運用会社	MS カテゴリー	純資産 (百万円)
1	グローバル・ソブリン・オープン(毎月決算型)	国際	国際債券型(F)	3,428,132
2	ピクテ・グローバル・インカム株式(毎月分配)	ピクテ	国際株式・グローバル(F)	936,607
3	ダイワ・グローバル債券ファンド(毎月)	大和	国際債券型(F)	828,654
4	ハイグレード・オセアニア・ボンド(毎月分配) 『愛称 : 杏の実』	大和	国際債券型(F)	786,846
5	財産3分法F(不動産・債券・株式)毎月分配型『愛称 : 財産3分法ファンド』	日興	国際ハイブリッド・バランス(F)	700,075
6	マイストーリー分配型(年6回)Bコース	野村	国際ハイブリッド・安定(F)	607,454
7	ブラジル・ボンド・オープン(毎月決算型)	大和	国際債券型(F)	583,542
8	短期豪ドル債オープン(毎月分配型)	大和住銀	国際債券型(F)	582,294
9	DIAM 高格付インカム・オープン(毎月決算)『愛称 : ハッピークローバー』	DIAM	国際債券型(F)	546,254
10	SMBC・日興ニューワールド債券(リアル)	三井住友	なし	513,936

(出所: モーニングスター)

#### グロソブの時代は終わった?

特筆すべきなのは、数年前には純資産総額1兆円を超えるファンドが数本あったのが、現在ではグローバル・

ソブリン・オープン（毎月決算型）（以下、グロソブ）だけになっている点と、そのグロソブも一時6兆円近い純資産総額だったものが、ここ1、2年で急速に純資産総額が減少し、3兆円台にまで落ち込んできている点である。

リーマンショック以降の円高傾向や、最近の欧州の混乱などでユーロの割合の高いグロソブが敬遠されているのだろう。それに加え、同じ毎月決算型ファンドでグロソブ以上の分配金を継続して出しているファンドや、ここ1、2年で一躍人気商品になってきた「通貨選択型ファンド」などへの乗り換えが進んでいるのかもしれない。

もちろん、全国で300を超えるダントツの取り扱い金融機関等の数や、積み立てなどで利用している投資家の多さなどを考えると、「グロソブの時代は終わった」などと断定するのは早計だろう。ただ、欧州の混乱やユーロに対する円高傾向が今後も続くようだと、まだしばらくはグロソブの純資産総額の減少は続く可能性がある。純資産総額の減少傾向がファンドの運用にも影響し、分配金の減額などにつながると、この悪循環はなかなか抜け出せないものとなる可能性もある。

### 人気化する通貨選択型ファンド

一方、昨年あたりから人気化したファンドといえば、やはり「通貨選択型ファンド」といえるだろう。設定本数が多かったというだけでなく、純資産総額が短期間で数千億円規模に膨らんだファンドもある。

「通貨選択型ファンド」とは、ハイ・イールド債やエマージング国発行の債券などを主な投資対象とし、それらの債券の発行通貨である米ドルを他のさまざまな通貨で為替ヘッジすることにより、為替ヘッジした通貨への投資効果を期待するものである。

例えば、米ドル建て債券を円で為替ヘッジすれば、母国通貨を円とする日本人には為替リスクがなくなることになるが、豪ドルでヘッジすると、オーストラリア人にとって為替リスクがなくなるだけで、日本人にとっては豪ドルの為替リスクが発生することになる。この考え方を逆手にとって、米ドル建ての債券などを豪ドルやレアル、ランド、リラなどのさまざまな通貨でヘッジすることで、ヘッジした通貨に投資したのと同じ効果が期待できるのである。

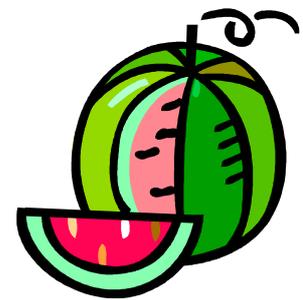
また、同じ通貨選択型ファンドのなかで、自由に通貨のスイッチングが可能なことや、金利差を利用した「為替ヘッジプレミアム」が得られることも魅力として挙げられる。為替ヘッジプレミアムは、米ドル建ての債券を豪ドルなどでヘッジすることで、米ドル金利と豪ドル金利の差をプレミアムとして受け取れる仕組みである。逆に、米ドルよりも金利の低い通貨でヘッジすると「為替ヘッジコスト」を支払う必要がある。高金利通貨の人気が高いのも、これが理由である。

順位	ファンド名称	運用会社	純資産 (百万円)
1	SMBC・日興ニューワールド債券(レアル)	三井住友	513,936
2	野村 G・ハイ・イールド債券(資源国通貨)毎月	野村	484,132
3	(通貨選択S) 新興国債券<レアル>(毎月)	三菱UFJ	405,910
4	野村エマージング債券投信(レアル)毎月	T&D	314,117
5	野村 新米国ハイ・イールド債券(レアル)毎月	野村	299,947
6	野村 米国ハイ・イールド債券(レアル)毎月	野村	186,592
7	エマージング・ボンド・F・レアルコース(毎月)	大和住銀	169,612
8	みずほハイブリッド証券(通貨選択)レアル	新光	164,703
9	野村 新エマージング債券投信(レアル)毎月	野村	138,205
10	野村 G・ハイ・イールド債券(アジア通貨)毎月	野村	136,884

(出所：モーニングスター)

前ページの表は、2010年7月13日現在の「通貨選択型ファンド」に該当するファンドの純資産総額上位10銘柄である。特徴的なのは、圧倒的にレアルで為替ヘッジしているファンドが多いということだ。レアルを母国通貨とするブラジルは、次回のサッカーW杯やオリンピックの開催予定地として決まっているだけでなく、BRICsの1国として今後の高い成長が期待されている。さらに、最近では世界有数の資源国としての注目度も高い。これまで、レアル建ての外国債券が発行されることはあったが、投資信託で本格的にレアルへの投資効果が期待できるファンドは比較的少なかったため、相次ぐ新規設定と投資家のニーズがまさにマッチしたのだろう。同じ通貨選択型ファンドでも、レアルだけ突出して残高の多いファンドもある。

ただし、ここまでレアルが人気化していることには注意も必要だろう。当然ながら、資金が集中している分だけマーケットが過熱してしまい、その反動がいつ起きてもおかしくない状態になってしまう可能性がある。または、すでにその過熱状態が起きているといえなくもない。さらに、通貨選択型ファンドが主な投資対象としている「ハイ・イールド債」や「エマージング国債」などは、金利水準が高い反面、信用リスクが高く、価格変動が大きいものだと考えられる。利用にあたっては、通常の外国債券で運用するファンド以上にリスクが高くなっている可能性があることを十分に認識すべきだろう。



< 著者プロフィール >

**菱田 雅生 氏**

ファイナンシャル・プランナー（CFPR）、1級FP技能士

1969年東京生まれ。早稲田大学法学部卒業後、山一証券株式会社に入社し営業業務に携わる。山一証券自主廃業後、独立系FPになる。以後10年以上にわたり、相談業務、原稿執筆、セミナー講師などに従事。2008年10月、ライフプランや資産運用に関するコンサルティング業務を主な事業とする“ライフアセットコンサルティング株式会社”設立。

- ・「ヒッシーのマネー騎士（ナイト）～マネしないと！」<http://suumo.jp/edit/money/hissi/>
- ・「FPヒッシーのみるみるわかる住宅ローン」<http://blog.smatch.jp/hissie/>
- ・「勝ち株ナビ」<http://www.gdaj.jp/>

**今後のメルマガをより良い物とするために下記のページより皆様のお声をお聞かせ下さい。**

<http://www.nichizei.com/fp-enquete.html>

メルマガ執筆者募集のお知らせ

税理士FP実務研究会事務局では、FP実務に関する様々なテーマでメルマガの執筆をしていただける方を募集中です。分野・テーマ等は自由です。最近の相談事例や得意分野など、ぜひ寄稿ください。執筆を希望される方は、税理士FP実務研究会事務局【株日税ビジネスサービス 総合企画部】までご連絡ください。 TEL 03-3340-4488